

「食と農林漁業に関する世論調査」結果のポイント

内閣府が平成30年11月2日に発表した「食と農林漁業に関する世論調査」の結果によると、日本の食文化の魅力は「各地域に四季折々の特徴的な食材があること」の割合が最も高くなっています。農山漁村に滞在するような旅行に関しては、「今後旅行してみたい」とする者の割合が47.1%、「今後旅行したいとは思わない」とする者の割合が50.5%となっています。

1. 日本の食文化の発信について

(1) 日本の食文化の魅力

日本の食文化の魅力は何だと思うか聞いたところ（複数回答）、「各地域に四季折々の特徴的な食材があること」の割合が最も高く66.4%、続いて「『だし』のうま味や味噌などの発酵食品を料理に使っていること」61.4%、「お正月、節分、節句のように年中行事にちなんだ料理があること」51.6%、「『いただきます』『ごちそうさま』や『もったいない』に表現されるように、自然や人に感謝して食べ物を大切にすること」47.0%となっています（図表不掲載）。

(2) 日本の食文化の中で、外国人に体験してほしいこと

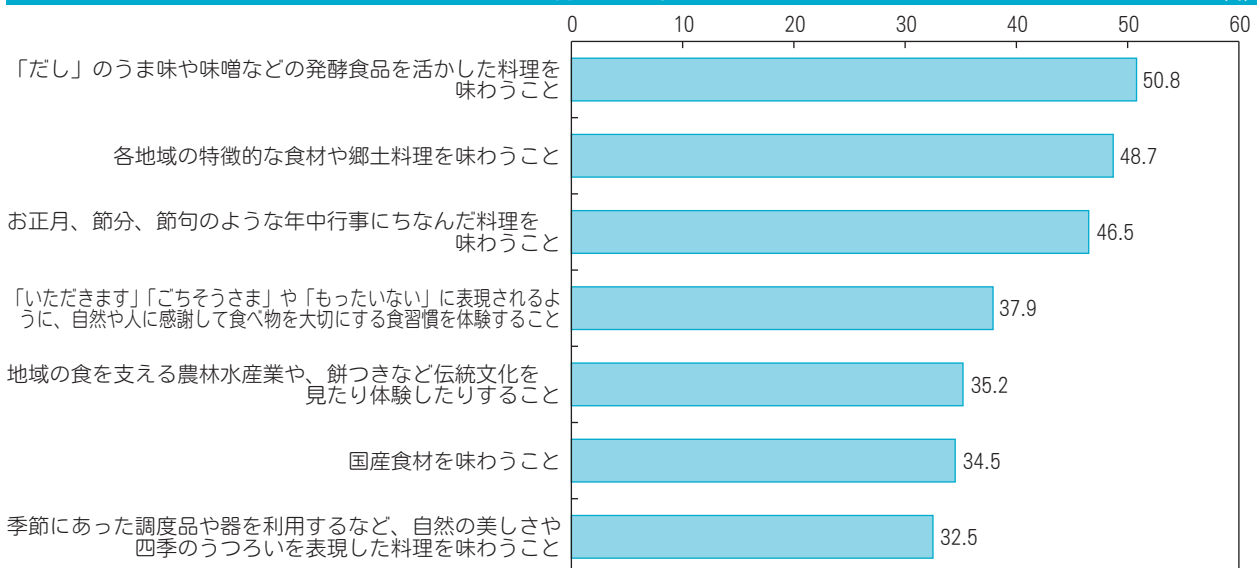
日本の食文化の中で、外国人に体験してほしいことは何か聞いたところ（複数回答）、「『だし』のうま味や味噌などの発酵食品を活かした料理を

味わうこと」の割合が最も高く50.8%、続いて「各地域の特徴的な食材や郷土料理を味わうこと」48.7%、「お正月、節分、節句のような年中行事にちなんだ料理を味わうこと」46.5%となっています（図1）。

(3) 外国人に日本の食文化を体験してもらうために飲食店の取組で重要だと思うこと

外国人に日本の食文化を体験してもらうために飲食店では、今後どのようなことに取組むことが重要だと思うか聞いたところ（複数回答）、「メニュー表示などの多言語化（英語、中国語など）」の割合が最も高く72.2%、続いて「多様な食文化に対応したメニューの提供（ベジタリアン、ハラールなど）」38.4%、「バリアフリー化（車椅子、盲導犬、点字メニューなど）」30.6%、「支払い（方法）のキャッシュレス化」28.4%となっています（図表不掲載）。

図1：日本の食文化の中で、外国人に体験してほしいこと（上位7項目）

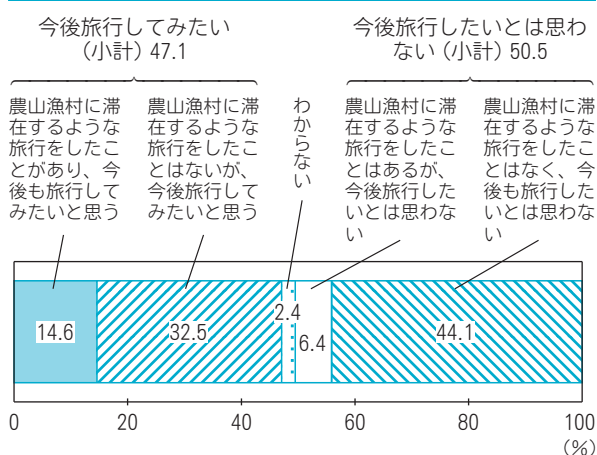


2. 農山漁村滞在型旅行について

(1) 農山漁村に滞在するような旅行に関する意識

ここ2～3年の間に農山漁村に滞在するような旅行をしたことがあるか、また、今後農山漁村に滞在するような旅行をしてみたいと思うか聞いたところ、「今後旅行してみたい」の割合が47.1%、「今後旅行したいとは思わない」の割合が50.5%となっています(図2)。

図2：農山漁村に滞在するような旅行に関する意識



① 農山漁村に滞在するような旅行で興味があること

農山漁村に滞在するような旅行を「今後してみたい」とする者に、今後旅行してみたいと思ったのは、どのようなことに興味があるからか聞いたところ(複数回答)、「自然・風景(山、川、海、棚田など)」が58.7%、「温泉での休養」が53.5%、「地域の特産品を使った食事」が52.0%と高くなっています(表1)。

表1：農山漁村に滞在するような旅行で興味があること(上位9項目)

項目	割合
自然・風景(山、川、海、棚田など)	58.7%
温泉での休養	53.5%
地域の特産品を使った食事	52.0%
お祭り・伝統芸能などの地域文化	40.1%
史跡・神社などの文化財	34.0%
地域の特産品を買うこと	30.3%
農林漁業体験(稲刈り、地引き網など)	27.5%
地域の人との交流	26.6%
農家・漁家民宿に泊まること	24.0%

② 農山漁村に滞在するような旅行での滞在希望期間

農山漁村に旅行する場合、滞在したいと思う期間はどれくらいか聞いたところ、「日帰り」が2.9%、「1泊」が26.4%、「2泊」が40.9%、「3泊」が15.3%、「4～6泊」が6.9%、「7泊以上」が4.1%となっています(図表不掲載)。

③ 農山漁村に滞在するような旅行で宿泊したい施設

農山漁村に旅行する場合、どのような施設に泊まってみたいか聞いたところ(複数回答)、「古民家・廃校などを改修した宿泊施設*1」が42.5%、「一般のホテル・旅館(※1、2を除く)」が39.2%、「農家・漁家民宿*2」が35.0%、「一般の民宿・ペンション(※1、2を除く)」29.2%となっています(図表不掲載)。

④ 農山漁村に滞在するような旅行をしたいと思わない理由

農山漁村に滞在するような旅行を「今後旅行をしたいとは思わない」とする者に、その理由は何か聞いたところ(複数回答)、「興味がないから」が最も高く45.3%、以下「滞在中に何をしてもいいかわからないから」13.3%、「宿泊施設の設備や衛生面に不安があるから」「交通アクセスが不便だから」がともに12.7%となっています(図表不掲載)。

(2) 「農泊」の認知度

「農泊」の意味を知っていたか聞いたところ、「意味を知らず、言葉も聞いたことはない」が最も高く55.2%、以下「意味を知っていた」25.5%、「意味を知らなかったが、言葉だけは聞いたことはあった」15.8%となっています(図表不掲載)。

日本の食文化の魅力として「四季折々の食材」や「だし」などの日本独自の食文化を挙げ、そしてその魅力を外国人にも体験してほしいという意見が多くなっています。農山漁村旅行も、まず自身で体験し、その良さを伝えてくれる人を増やす必要があると感じます。

(奥 桂子)